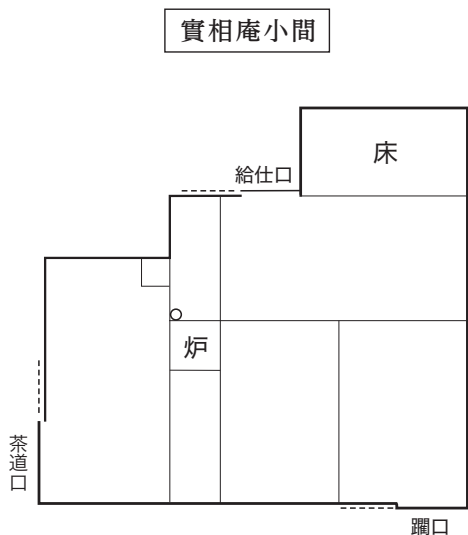


實性寺 表千家茶道の2月稽古

〽 實相庵小間での稽古 5日間に分けて〽

實相庵



【2月の稽古】

- 一、初炭 盆香合
- 二、濃茶 茶通箱 唐物 続き薄茶
- 一、後炭
- 一、薄茶 替茶碗

【道具組】

- 〔掛物〕 兼中斎宗匠画讃 桃の花「桃唇日向開」
- 〔花入〕 輪無し二重切 木地丸香台

〔釜〕

小阿弥陀堂

炉縁

杉木地

五徳

鬼爪

〔香合〕

信楽大鷲

炭斗

油竹

火箸

少庵型

灰器

備前

灰匙

少庵型

〔水指〕

瀬戸一重口

〔茶人〕

茄子 広州窯

仕服

いちご裂

〔茶碗〕

赤 席主手作り

替

志野筒

宗心宗匠絵付 阿漕焼



【稽古の要点】

〈初炭〉

- 中柱中釘に羽根を掛ける。
釣棚下段に香合を飾る。

- 炭斗灰器を運び、中柱に向かい左手で羽根をとり、あつかって左手に受け、炉正面へ。釣棚にさらに向かい、香合をとり回って、炭斗下段位置に。

- 釜は、台目切ゆえに下座まで引く。

- 炭斗を下げるとすぐに座掃を持ちだし、道具畳と炉の右炭斗の後も掃く。茶道口を閉めると膝前を掃き、水張口を開け掃き出す。

〈盆香合〉

- 釣棚下段に盆香合を飾る。

- 香合を拝見に出す時、席が中板ゆえに通常炭手前同様に中板を超えた所に出す。

〈続薄茶〉

- 濃茶が終わり、建水を下げ、給仕口より蓑盆、干菓子を出し、茶器と替茶碗を持ち出し、水屋に下がり建水を持ち出す。

〈客〉

- 小間にて茶碗、拝見物はにじってあつかう。

尚、3月の稽古は、広間聴松軒（残月写し）にて、「お茶湯」「茶カフキ」を中心とした稽古を行います。

